

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (1)	正答	エ(主題についてあらかじめ理解しておくべき～)	97	91	79	267	89.0
	誤答	ウ(主題に関する具体的事項を一つにまとめた～)	1	3	9	13	4.3
		ア(主題に関わる内容の中で, 最も強調したい～)		3	9	12	4.0
		イ(この主題を取り上げた理由を明らかにした～)		3	2	5	1.7
		オ(主題と直接関係はないが, 触れておくべき～)	2		1	3	1.0

掲示物の中での情報の位置付けを読み取る問題である。正答はエで、正答率は89.0%、〈a b - c 型〉を示している。全体的に正答率は高く、情報相互の関係を適切に理解できたようである。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (2)	正答	オ(風が吹いていないときは注意しましょう)	91	72	60	223	74.3
	誤答	ウ(長時間作業する場合には注意しましょう)	9	17	24	50	16.7
		イ(活動するときの服装に気を付けましょう)		5	5	10	3.3
		ア(体調の良くないときには注意しましょう)		4	5	9	3.0
		エ(高齢者や乳幼児は特に気を付けましょう)		2	6	8	2.7

小見出しに合う具体例を選ぶ問題である。正答はオで、正答率は74.3%、〈a - b - c 型〉を示している。誤答を選んだ生徒は、⑥の「環境」が指している意味を、⑦・⑧の内容を元に適切に理解することができなかったようである。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (3)	正答	イ(②や⑥とは別の内容として～)	51	44	31	126	42.0
	誤答	ア(①から結論付けられる内容として～)	30	23	29	82	27.3
		エ(⑤をさらに掘り下げた内容として～)	12	17	24	53	17.7
		ウ(②のより詳しい内容として～)	5	9	11	25	8.3
		オ(⑥と⑦⑧をつなぐ内容として～)	2	7	5	14	4.7

新しい情報を、既存の情報と関連付けて分類する問題である。正答率は42.0%、〈a - b - c 型〉を示している。新しい情報を分類するには、既存の情報全体がどのように整理して並べられているかを理解した上で、全体の中で適切に関連付ける必要がある。しかし、誤答を選んだ生徒は個々の情報との関係だけを見て適否を判断してしまい、全体の構成を勘案することができなかったようである。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	イ(知る必要性のより高い⑤を, ②の位置に～)	95	75	66	236	78.7
	誤答	エ(熱中症になりにくい体づくりを, 予防の～)	3	13	13	29	9.7
		ウ(⑦や⑧には, 注意の目安となるような～)	1	3	11	15	5.0
		オ(下線を引いたり太字にしたりすると, ～)	1	7	2	10	3.3
		ア(①に加えて, 熱中症がどれほど危ないか～)		2	7	9	3.0
		(無 答)				1	1

改善案の内容として不適当なものを選ぶ問題である。正答はイで、正答率は78.7%、〈a - b c 型〉を示している。正答を選ぶためには、②と③・④・⑤の関係について理解する必要がある。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (5)	正答	ア (情報を項目の並びに沿って読むことで, ~)	94	89	72	255	85.0
	誤答	ウ (読み手による情報の取捨によって, ~)	5	8	9	22	7.3
		エ (情報相互の関係を意識して読むことで, ~)	1	1	8	10	3.3
		イ (情報を自由に読み取ることで, 柔軟に~)		2	4	6	2.0
		オ (複雑に並んだ情報を読み解くことで, ~)			6	6	2.0
		(無 答)			1	1	0.3

構成の効果について指摘する問題である。正答はアで、正答率は85.0%、〈a b - c型〉を示している。情報を羅列しただけの場合に比べて、構成を考え、情報を整理して示すことは、読み手の理解を助けるということに気付けば正答に至る。全体的によくできていた。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	エ (楽しげな歌声は, あたかも小鳥のさえずりのようだ)	91	78	75	244	81.3
	誤答	ア (今の彼女の力ならば, さぞ失敗することはあるまい)	6	12	16	34	11.3
		ウ (山頂から眺める景色は, きっと美しいかもしれない)	3	10	7	20	6.7
		オ (彼女は, まさか時間を間違えて遅れたのに違いない)			2	2	0.7
		イ (諦めないで努力していれば, ぜひ理解できるはずだ)					0.0

副詞の呼応の知識についての問題である。正答率は81.3%、〈a - b c型〉を示している。「あたかも」には「ようだ」が呼応することを多くの生徒が理解していることが分かる。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	イ (私は食べることが好きだが, 特に甘いものには目がない)	82	69	56	207	69.0
	誤答	オ (進学先が決まり, ほっとして肩をなでおろす)	7	16	15	38	12.7
		エ (他の生徒の前で注意され, 顔に火がつく思いがした)	5	6	10	21	7.0
		ウ (友達の話に合いの手を打つ)	3	5	10	18	6.0
		ア (宿題が遅々として進まず, まるで亀の歩みだ)	2	4	8	14	4.3
		(無 答)	1		1	2	0.7

慣用句の知識についての問題である。正答率は69.0%、〈a - b - c型〉を示している。30%以上の生徒が、「目がない」という表現を正確に理解していないことが分かる。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	ウ ((1)いらっしゃいますか(2)呼んで参ります(3)見ましたか)	93	77	63	233	77.7
	誤答	イ ((1)いらっしゃいますか(2)呼びます(3)見ましたか)	7	21	30	58	19.3
		オ ((1)いらっしゃいますか(2)呼んで参ります(3)拝見しましたか)		2	6	8	2.7
		エ ((1)おりますか(2)呼びます(3)見ましたか)			1	1	0.3
		ア ((1)おりますか(2)呼びます(3)拝見しましたか)					0.0

場面に応じた敬語の用法についての問題である。正答率は77.7%、〈a - b - c型〉を示している。日常で用いる機会の多い敬語について多くの生徒が理解していることが分かる。一方で誤答にイが多い点から、謙讓表現についての理解が不十分であることが考えられる。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	ア(和歌 一首 - 新聞 一部 - いす 一脚)	71	48	32	151	50.3
	誤答	エ(和歌 一句 - 新聞 一部 - いす 一脚)	24	35	46	105	35.0
		イ(和歌 一句 - 新聞 一冊 - いす 一脚)	5	14	18	37	12.3
		ウ(和歌 一句 - 新聞 一冊 - いす 一台)		1	2	3	1.0
		オ(和歌 一首 - 新聞 一冊 - いす 一台)		2	1	3	1.0
		(無 答)			1	1	0.3

助数詞の知識についての問題である。正答率は50.3%、〈a - b - c型〉を示している。誤答の傾向から、多くの生徒が和歌と俳句の数え方を混同していると考えられる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (1)	正答	妨害	38	15	8	61	20.3
	誤答	防害	43	43	46	132	44.0
		暴害	7	16	14	37	12.3
		□害(「妨」の無表記)	2	6	4	12	4.0
		(その他)	8	14	14	36	12.0
		(無 答)	2	6	14	22	7.3

「ボウガイ」を漢字に直す問題である。正答率は20.3%、低位の〈a - b c型〉を示している。平成26年度の「サマタ(げる)」を漢字に直す問題では正答率が24.3%で、意味や字形が似ていることから「防(げる)」と答えた生徒が23.0%いたが、「ボウ」という音も同じであった今回はさらに低い正答率となった。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (2)	正答	回答	64	33	30	127	42.0
	誤答	解答	35	59	66	160	53.3
		(その他)	1	6	4	11	3.7
		(無 答)		2		2	0.7

「カイトウ」を漢字に直す問題である。正答率は42.0%、〈a - b c型〉を示している。平成9年度(正答率23.3%)に出題されており、その時と比較すると正答率は上がっているが、依然として意味を区別して同音の漢字を使い分ける力が不足している。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (3)	正答	尋(ねる)	46	38	26	110	36.7
	誤答	訪	35	50	52	137	45.7
		(その他)	13	10	11	34	11.3
		(無 答)	6	2	11	19	6.3

「タズ(ねる)」を漢字に直す問題である。正答率は36.7%、低位の〈a - b - c型〉を示している。どの群も誤答の「訪」が多く、同訓の異字を意味によって使い分ける力が不足している。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (4)	正答	にが (い)	99	98	89	286	95.3
	誤答	くるし (い)	1		3	4	1.3
		つら (い)		1	2	3	1.0
		(その他)		1	6	7	2.3

「苦 (い)」の読みを答える問題である。高位の〈a b - c 型〉を示している。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	かつあい	94	83	62	239	79.7
	誤答	わりあい	5	12	24	41	13.7
		(その他)	1	3	12	16	5.3
		(無 答)		2	2	4	1.3

「割愛」の読みを答える問題である。正答率は79.7%、〈a b - c 型〉を示している。昭和46年度(正答率74.5%)に出題された後、平成17年度(正答率39.3%)にも出題されて大きく正答率が下がったのに対し、今回は正答率が回復している。誤答の生徒は、「割愛する」という言葉自体に馴染みがなかったために、「割合」のようなよく知っている言葉と混同したのではないか。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	いなか	100	99	99	298	99.3
	誤答	だしゃ			1	1	0.3
		(その他)		1		1	0.3

「田舎」の読みを答える問題である。高位の〈a b c 型〉を示している。

〈指導上の留意点〉

実 態 及 び 問 題 点	
与えられた情報をすでにもっている情報と関連させ、応用する力が多くの生徒に不足していることから、情報を自ら分類・整理し、的確に活用する力を身に付けさせたい。	
指導における改善の具体策	
学習活動	既存の掲示物やポスターを再構成するグループ活動を行う。
1	情報の書かれたカードをテーマに従って分類し、構成を考える。 ・違法ドラッグや18歳選挙権等、学校に掲示してあるような掲示物やポスターを材料とする。 ・掲示物の情報をばらばらにして、一枚に一つの情報が書かれたカードを作成し、配布する。 ・指導者は、材料とした掲示物のテーマだけを示す。例：「違法ドラッグには手を出すな」
2	調べ学習によって関連する情報を収集し、箇条書きのカードにする。それを1でつくった分類に従って付け加える。必要であれば図表や写真を用いてもよい。
3	A3用紙にカードを貼り付けて簡単にまとめる。用紙は複数枚を貼り合わせてもよい。
4	隣のグループに対して発表し、分類や構成の分かりにくい部分を評価・指摘し合う。
5	評価や指導者の助言を参考に模造紙にまとめ直し、クラス全体でポスターセッションを行う。 ・発表者側と見学者側に分かれてポスターセッションを行い、その後両者を入れ替える。
【発展】	指導者がテーマだけを示し、全ての情報を生徒に集めさせ、分類・構成させる。